
だから今日は、はんぶんこ。

秋月風空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

だから今日は、はんぶんこ。

【Nコード】

N4927C

【作者名】

秋月風空

【あらすじ】

明日、死ぬと予言された少年は、最後の1日に彼女とデートをします。そして、今までを振り返り、彼なりの感謝と別れを彼女に伝えます。

朝、僕はいつもと同じように目覚めた。ほとんどいつもと同じように目が覚めた。ただ一つ違うことは、おかしい夢を見たこと。突然、知らない老人が、

「お前は明日死ぬ。」

と言ってきたんだ。そんな、明日死ぬだなんて夢で言われても。僕は当然信じない。だけど、カーテンを開けて、窓を開くと、信じられないくらい綺麗で、透き通った青い空が見えた。僕は死ぬんだ、と思った。

明日死ぬと分かってても、今日一日でやりたいことを全てやらなくちゃいけないと分かってても、すぐにコレをしようなんて思い浮かばない。僕は部屋の中をぐるぐる回りながら考える。

そして――彼女とデートに行くことにしたんだ。

今まで僕の方からデートに誘うなんてことは一度もなかったものだから、ちよつと訝しげに、だけど、喜んで、OKしてくれた。場所は遊園地。ありふれてるかもしれないけど、これくらいしか思い浮かばなくて。小さい遊園地だから、みんながびっくりするようなそんなすごい物はないし、人もそんなに多いわけじゃない。コーヒーカープに、ジェットコースター、メリーゴーランド。ちよつと恥ずかしがりながら、結構絶叫しながら、それぞれのアトラクションを楽しんだんだ。

それで、最後に観覧車。日もだんだん傾いていく。彼女が外を見る。その横顔を見て、こんなところにも、ほくろがあったんだな、とちよつと小さな発見をした。

「きれいだね。」

彼女のその言葉を聞いて、来てよかったなと思った。しっかりとそ

の横顔を脳裏に焼き付けた。

さっきのほくろじゃないけれど、振り返れば、気付いてあげられないこと、分かってあげられないこと、たくさんあったなあ。

そして――、僕らは帰路についた。

海に沈んでいく太陽を見ながら二人並んで歩く。こおろぎの鳴き声が聞こえる。

「今日は楽しかった、ありがとう。」

これが、僕の最後の1日。楽しかったなあ。

僕の希望で、途中でコンビニに寄って買い物をした。彼女はオレンジジュース。僕も同じオレンジジュース、あと、アイスクャンデー。2つ木の棒が刺さっていて、中央でパキンと割れる奴だ。いつも、半分欲しがる彼女の前で両方とも食べるのが楽しみだった。だけど今日は、半分に割って彼女にあげる。オレンジジュース片手に彼女はそれを受け取り、

「ありがとう。でも、珍しいね。」

そう言った。僕は、もう一度夕日を見る。今日見たすべての景色を思い起こす。

そして――、だから、今日ははんぶんこ。

(後書き)

ご覧頂きありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4927c/>

だから今日は、はんぶんこ。

2010年10月9日20時01分発行